

65 歳の女性。2 日前の夕方、日本酒を一合程度飲んでいたら便器が真っ赤になるくらいの吐血を認めた。家人の介護にて横になり安静にしていたところ状態が安定したため様子を見ていたが本日来院した。5 年前より B 型肝炎を指摘され、外来経過観察となるも自己中断していた。

既往歴：B 型肝炎

慢性硬膜下血腫(4 年前)

嗜好歴：アルコール 酎ハイ 350ml 2 本を 2 日に 1 回

喫煙 19～55 歳 20 本/日

内服薬：なし

アレルギー：なし

現症：意識清明。BP：155/81mmHg、HR：78bpm、BT：36.8℃、SpO2：97%

眼瞼結膜貧血なし、眼球結膜黄染なし、明らかなリンパ節腫脹なし

呼吸音正常、心雑音を聴取しない

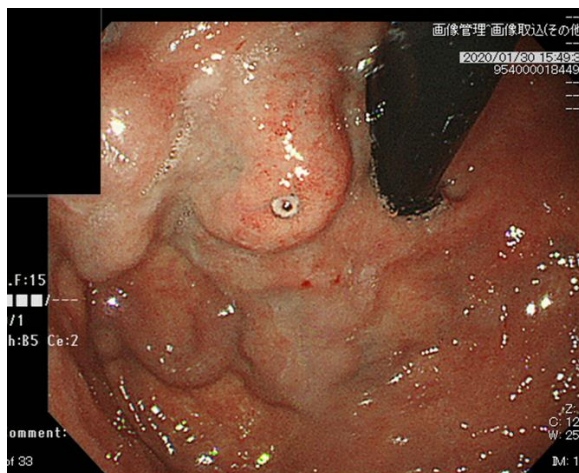
腹部平坦、軟、圧痛なし、下腿浮腫なし

血液検査所見：(2020/1/30)

WBC 4830、RBC 295 万、Hb 9.4、Ht 27.5%、Plt 6.8 万

AST 47、ALT 36、LDH 178、ALP 219、 γ -GTP 54、TB 0.9、TP 5.5、Alb 2.3、BUN 29、Cre 0.57、Na 142、K 3.6、Cl 113、CRP 0.62、HBs 抗原(+)、HBc 抗体(+)、HCV 抗体(-)

画像所見



上部消化管内視鏡検査



造影 CT

(1) 出血の原因と考えられる疾患はどれか

- a. 肝細胞癌、b. 出血性胃潰瘍、c. Mallory-Weiss 症候群、d. 胃静脈瘤、e. 胃癌

(2) 適切な治療はどれか

- a. TACE(肝動脈化学塞栓術)、b. BRTO(バルーン下逆行性経静脈的塞栓術)、c. 内視鏡的静脈瘤結紮術、d. 経過観察、e. 胃全摘

(3) 一般的に本疾患を引き起こすと考えられる基礎疾患はどれか。2 つ選べ。

- a. H. pylori 感染、b. 原発性胆汁性胆管炎、c. 喘息、d. 甲状腺機能亢進症、e. 肝硬変

(1)d

(2)b

(3)b、e

40 歳の女性。1 年前より胸のつかえ感を自覚していた。その後症状が悪化し、食道にものが落ちていかないような感覚を覚え、また嘔吐も出現したため来院した。

既往歴：特記事項なし

嗜好歴：飲酒歴、喫煙歴ともになし

内服薬：なし

アレルギー：なし

現症：意識清明。BP：113/77mmHg、HR：57bpm、BT：36.3℃、SpO2：99%

眼瞼結膜貧血なし、眼球結膜黄染なし、明らかなリンパ節腫脹なし

呼吸音正常、心雑音を聴取しない

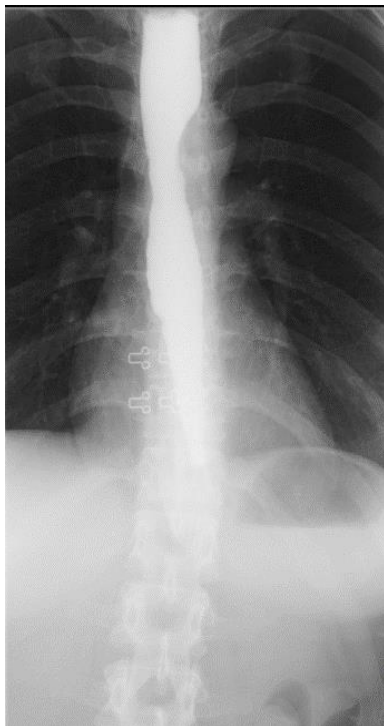
腹部平坦、軟、圧痛なし、下腿浮腫なし

血液検査所見：(2020/2/19)

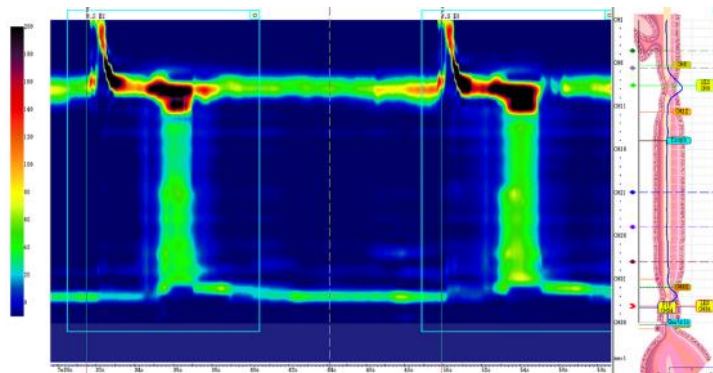
WBC 6470、RBC 471 万、Hb 13.7、Ht 42.2%、Plt 23.2 万

AST 12、ALT 8、LDH 146、ALP 146、 γ -GTP 8、TB 0.9、TP 6.5、Alb 4.2、BUN 10、Cre 0.66、Na 141、K 3.3、Cl 109、CRP 0.03、

画像



食道 X 線造影



食道内圧検査

(1) 最も考えられる疾患はどれか。

- a. 食道がん、b.食道憩室炎、c.食道アカラシア、d. 逆流性食道炎、e. 食道静脈瘤

(2) この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a. 喫煙がリスクファクターである
b. LES 圧の低下が認められる
c. 嚥下困難が出現することが多い
d. 肝硬変を合併していることが多い
e. 食道の蠕動運動が消失する

(3) この疾患の治療として正しいのはどれか。1つ選べ。

- a. 経過観察、b. PPI 内服、c. ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)、d. POEM(経口内視鏡的筋層切開術)、e. EIS(内視鏡的静脈瘤硬化療法)

(1)c

(2)c、e

(3)d